

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	75	大学等名	山梨学院短期大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学修成果を3つの要素で概念化し、学修成果の学内・学外評価、学修成果の可視化と社会への公表、教育活動の改善等の実施により、「卒業時学修成果の学内評価と社会からの評価とのズレ」及び「学生の学修時間の不足」という課題への対応を図ったことで、大学改革が推進されている。また、既存の公的な試験の活用やディプロマ・サプリメントである「学修成果証明書」の開発により、内部評価と外部評価の可視化、授業外学修時間数、卒業レポート内容等、学修成果の多面的な評価が一覧化できるようになったことに加え、「学修支援システム PROPERTIES e-learning」構築の一環として導入した「WebClass」の積極的運用により、授業外学修時間の増加、教員と学生間並びに学生同士のコミュニケーションの活性化、学生の反応に即した授業実践等の成果が上がっていることも評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、卒業時の学生の学修成果を学内・学外の両輪で評価する仕組みを構築し、「専門的知識外部試験」「専門的実践力外部試験」「ボランティア・パスポート」等の外部評価を実施した結果、学修成果評価の客観性が向上したことに加え、学外助言評価委員会の助言も参考に開発された「学修成果証明書」は、卒業時に学生が就職先に提出するに至っていることなどから、事業が着実に実施されたと評価できる。一方で、必須指標「学生の成績評価（GPA）」の実績値について、事業開始年度から令和元年度まで向上が見られるものの、いずれも目標値に到達しておらず、「学生の授業外学修時間」は令和元年度実績値が目標値を下回ったことから、改善のための取組強化が望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長の統括の下、事業推進組織である「PROPERTIES 推進室」及び「自己点検・評価委員会」を通して自己評価が実施され、自己評価結果は、「学外助言評価委員会」に報告されるとともに助言評価も受け、改善策が検討されるという PDCA サイクルが構築され、機能していると評価できる。また、本事業は資金面でも計画どおり進捗し、補助期間中事業規模を縮小せず計画を遂行できたことに加え、補助期間終了後も必要経費は学内予算に計上されていることから、今後も本事業が継続的かつ発展的に実施されると十分に期待される。

事業成果の普及については、事業紹介リーフレットを毎年度作成・配付、テーマVポータルサイトでの情報発信、AP フォーラム、AP シンポジウム&ポスターセッション並びに学会・研修会等における事例報告の実施、AP 成果報告書の作成・配付、さらに本事業専用サイトでの取組の紹介記事を随時追加・更新等、多種多様な取組の実施により、積極的に事業の普及に努めていることがうかがえる。加えて、ディプロマ・サプリメント「学修成果証明書」は、卒業生から就職先へ提出されており、本事業を広く社会に発信することに役立っていることも評価できる。